

令和2年度 あしたのまち・くらしづくり活動賞 兵庫県表彰受賞団体のご紹介



★地域づくりのヒントになる活動が収録★

あしたの日本を創る運動推進功労

- ・内閣官房長官表彰受賞者
- ・会長表彰受賞団体

あすの兵庫を創る生活運動協議会

- ・新規加入団体 も併せてご紹介

— 目 次 —

1 令和2年度 あしたのまち・くらしづくり活動賞 兵庫県表彰受賞団体

【優秀賞】

神戸市職員有志	・ ・ ・ ・ 1
東灘こどもカフェ	・ ・ ・ ・ 2
兵庫県立松陽高等学校 SDGs Project Team	・ ・ ・ ・ 3
兵庫県立豊岡総合高等学校インターアクトクラブ	・ ・ ・ ・ 4

【奨励賞】

O i s h i サポートセンター	・ ・ ・ ・ 5
特定非営利活動法人なごみ	・ ・ ・ ・ 5
認定特定非営利活動法人みなみ会	・ ・ ・ ・ 6
N P O 法人みやっこサポート	・ ・ ・ ・ 6
M o r e 繁盛	・ ・ ・ ・ 7

2 令和2年度 あしたの日本を創る運動推進功労 内閣官房長官表彰受賞者

河野 さかゑ 氏（山水生活学校代表）	・ ・ ・ ・ 7
--------------------	-----------

3 令和2年度 あしたの日本を創る運動推進功労 会長表彰受賞団体

月が丘生活学校	・ ・ ・ ・ 8
---------	-----------

4 あすの兵庫を創る生活運動協議会 新規加入団体

真野地区生活学校	・ ・ ・ ・ 9
----------	-----------

神戸市職員有志

令和2年度あしたのまち・くらしづくり活動賞
全国振興奨励賞・兵庫県優秀賞

- 【団体所在地】 神戸市西区
【活動開始年】 平成29年
【メンバー数】 スタッフ10名
ボランティア講師約40名

【活動テーマ】
経済的な事情等を抱えた中学生等への無料学習支援

【団体連絡先】
E-mail : info@kobemirai.com



学園都市校の教室の様子

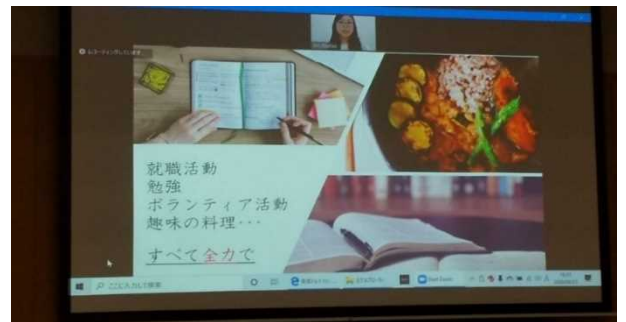
〔本年6月に教室を再開することができ、毎週日曜午後に、コロナ対策を十分に講じながら、対面での支援を行っています。〕

【活動の概要】

神戸市職員が、職務外で社会的課題の解決に取り組む。コロナ休校の際は、オンラインでの個別双方向学習支援を実施し、神戸市の施策に取り入れられた。

〈主な活動〉

- ①経済的な困難を抱える中学生への学習支援、「神戸みらい学習室」の運営。
- ②大学生講師が勉強の意義を語る「夢ゼミ」
- ③市内7団体の「神戸学習支援協議会」



夢ゼミ

〔大学生が中学生に対し、就職活動や大学生活などを発表しています。毎月大学生が順番に発表しており、写真は6月に神戸市外国語大学NさんによるZoomを活用した発表の1シーン。〕

【活動紹介】

この団体が運営する教室は、学園都市校（神戸市西区：UNITY2階セミナー室）と本山校（神戸市東灘区）にあります。毎週日曜13時30分から3時間、2校で約40名の中学生に対し、総勢40名の地域の高校生・大学生・大学院生や会社員・塾講師や教師の退職者等のボランティア講師が、無料の学習支援を提供しています。

支援においては、受講生ごとに、学習計画表と講師用カルテを作成し、受講生と講師の双方が学習記録や次週の取り組みを一目でわかるようにしています。また、毎回開始前と終了後に講師と事務局スタッフの市職員の全員で打合せ会を行い、学習進捗や目標を踏まえた受講生ごとの指導方針を協議・共有しています。これに加え、保護者との個別面談を定期的に行い、家庭学習状況や要望を適切に講師にフィードバックしています。

こうした質の高い教育支援活動の成果を把握する指標として一昨年から外部模試受験を導入しました。結果は、ほぼ全員の偏差値アップでした。

また月1回の「夢ゼミ」では、講師の大学生が自分たちの夢や勉強する意義などを発表。中学生と保護者たちが参加し、「勉強が将来の自分の可能性を広げてくれることに気付いた」など、多くの

中学生の内面変化とモチベーションの向上につながっています。

令和2年4月より、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で市内の学校が休校となり、「神戸みらい学習室」も閉鎖となりました。そこでオンラインでの1対1の個別同時双方向型の学習支援を開始。家庭学習に最適な教材を選びすぐり各家庭に送付するとともに、ニッセイ財団から寄贈頂いた電子辞書を貸し出すなど家庭学習の支援を強化しました。

こうした取り組みを神戸市長に提案した結果、5月から、市内の生活困窮世帯の中学3年生を在宅のまま大学生と結ぶ個別双方向型のオンライン学習を全国で初めて行政の仕組みとして実施することとなりました。

公務員が職務の中で感じてきた社会的課題を、職務外で一住民として実際に取り組む事で実証し、そこで得た成功事例を行政にフィードバックするという取り組みは、地域貢献のロールモデルになり得ると考えます。本来、社会に貢献したいという思いで奉職した眠れる全国の公務員が立ち上がり行動を起こせば社会が変わると我々は信じて、この活動に取り組んでいます。

東灘こどもカフェ

令和2年度あしたのまち・くらしづくり活動
賞全国振興奨励賞 ・ 兵庫県優秀賞

【団体所在地】 神戸市東灘区

【活動開始年】 平成23年

【メンバー数】 会員807名

【活動テーマ】

多世代交流の居場所を中心になんでも活動

【団体連絡先】

TEL : 090-7701-6393

【活動の概要】

子どもの健全な成長、発展を願って10年目。
地域の多世代交流、絆づくりを年間363日
実施、約1万人が利用している。

〈主な活動〉

- ①あたふたクッキングの弁当配食事業
- ②「地域住民」講師による講座を開催
- ③多世代交流による昼食カフェ
- ④なんでもお手伝いセンターの生活サポート
- ⑤バザー、プルトップ収集等の環境活動



2015年クリスマス会



2018年定例会

【活動紹介】

代表の中村さんは、東京で20年の単身赴任を経て帰郷した時、自分の居場所がない、と感じたそうです。それが地域づくり活動のきっかけでした。

そこで数人の仲間とともに、今の地域で何が必要なのかを考え、子どもへの食育の大切さを根底に、「食のある居場所」を立ち上げました。60歳で調理師免許を取得した中村さんのノウハウを生かし、月に数回の料理教室などのイベントを始めたのです。

最初は、参加者も一日数人程度の日が多かったのですが、「石の上にも3年」と粘り強く続けているうちに、人の輪が広がっていきました。もちろん、その費用はすべて会員で捻出しています。

現在の会員数は807人。年間363日開店し、年間約1万人が利用。運営はシニアの男性が中心で、「継続は力なり」をモットーに、毎日何かをやっている・いつでも開いている・なんでもやる・食が中心にある・にぎやかな空間です。最近では生きづらさを抱える人も来られます。10年目を迎え、活動は大きく広がっています。

例えば、阪神・淡路大震災以来20年以上続いってきた、「あたふたクッキング」の運営を引き継ぎました。月曜から金曜の間に、デイケア、保育所施設及び個人宅など、一日平均15か所に弁当配達を行っています。

会員が、ある時は生徒に、ある時は先生になる講座は、これまで159種類以上、年間200回以上が開催されています。もったいない精神で不要品を持ち寄り、毎日行っているバザーは、年間の純益が30万円を超えました。

地元自治会、老人会、子ども会、まちづくり協議会、行政などとも交流、協働をしています。

現在は家庭の機能が低下し、マンション等での孤独死が増えています。東灘区でも、実質単独世帯が50%を超えており、地域コミュニティの活性化が必要とされています。

そんな中で、役割を押し付けない、できる範囲で行う、事務や経理情報を公開する、世代を超えた地域家族的な役割を担うことを、運営の基本方針としています。

兵庫県立松陽高等学校

SDGs Project Team

【団体所在地】 高砂市

【活動開始年】 平成 29 年

【メンバー数】 11 名

【活動テーマ】

高校生による学科間・産学・高大連携事業

【団体連絡先】

TEL : 079-447-4021

Mail : yoshikazu_kitagawa@hyogo-c.ed.jp



熊本への支援物資を集荷

令和2年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 兵庫県優秀賞

【活動の概要】

松陽高校の「防災ジュニアリーダー」の生徒たちが、被災地でのボランティア活動を通じて、「自分たちにできることは何か」を考え、それをきっかけにして、賞味期限が 37 か月の災害食のパンの缶詰「松の陽だまりパン」の開発に取り組み、2年の歳月をかけて完成させた。

現在このパンを用いて、啓発活動、販売実習、寄付・募金活動、広報活動などの様々な活動を、年間 50 回程度企画し、実行している。



松の陽だまりパンが2年の歳月をかけて商品化！

【活動紹介】

松陽高校の「防災ジュニアリーダー」の生徒たちが、東日本大震災、九州北部や西日本豪雨災害等の被災地でボランティア活動をする中で、「新鮮な野菜や果物が食べたい」という被災者の生の声を聞いたり、避難所で便秘や体調不良に苦しんでいる方々が多いという新聞報道を見たりしたことが、プロジェクトのきっかけでした。その活動報告を「総合的な学習の時間・課題研究発表会」で聞いた商業科2年生が、「商品開発」の授業の中で、災害食のパンの缶詰の開発に産学連携で取り組むことになりました。2年の歳月をかけて完成したパンの缶詰は、賞味期限が37か月間という災害食ですが、ブルーベリーの食物繊維が多く含まれて健康に良いだけでなく、甘くて柔らかく、乳幼児やお年寄りにも食べやすいように工夫されています。このニュースは多くのメディアに取り上げられ、全国で大きな反響を呼びました。

その後、「商品を完成させて終わり」ではなく、SDGs（持続可能な開発目標）に基づき、この活動を被災者だけでなく、福祉施設・子ども食堂・生活困窮者等への支援などに広げ、それを継続できる体制づくりを目指しています。具体的には、松陽高校内で商業科と生活文化科の学科間連携、宮城農業高等学校・奈良県立奈良情報商業高等学校との学校間連携、トヨタやイオンとの産学連携、兵庫大学との高大連携につながりました。また百貨店やイオンなどの商業施設、ひょうご産業教育フェアやひょうご安全のつどいなどの行事において販売実習を行っています。さらに各種ソーシャルメディア、地元のケーブルテレビやラジオ放送では、定期的に広報活動を行っています。これらを通じて、県民や日本全国の人々の防災意識を「他人事」から「自分事」に、少しずつ変えていくことが、この活動を行う目的です。

兵庫県立 豊岡総合高等学校 インターアクトクラブ

【団体所在地】 豊岡市

【活動開始年】 平成 22 年

【メンバー数】 19 名 (2020 年 6 月 22 日現在)

【活動テーマ】

高校生が繋ぐ被災地との「絆」づくりの活動

【団体連絡先】

TEL : 0796-22-7177



インターアクト米の収穫作業

令和 2 年度あしたのまち・くらしづくり活動賞
兵庫県優秀賞

【活動の概要】

2011 年の東日本大震災を機に、東北等の被災地を訪問し、復興支援活動をしている。

〈主な活動〉

- ①被災者交流支援。東北には 9 年で 12 回、熊本は 4 年で 4 回、岡山は 2 年で 3 回訪問
- ②無農薬アイガモ米の稲作を通じた環境問題と生命の尊厳を考える活動
- ③地域の人や地域団体、豊岡在住の外国人との稲作を通じた交流活動



ミニランドセルのワークショップ
(於 熊本県上益城郡益城町)

【活動紹介】

インターアクトクラブとは、18 歳までの青少年による社会奉仕活動のクラブです。豊岡総合高校では部活動の一つとして実施しており、地元のロータリークラブや地域団体と連携した活動は、様々な広がりを見せています。

とくに 2011 年に未曾有の災害東日本大震災が起きました。1995 年の阪神・淡路大震災、平成 16 年の台風 23 号など、自分たちの住む街が被災地だったこともあり、生徒たちは復興の一助となりたいと切望しました。

その年の夏に宮城県石巻市などを訪問し、流出したアルバムの整理、水産会社のパレット洗浄、溝掃除などを行いました。一過性にならないため、以後毎年東北を訪問し、復興作業、高校生との交流、震災ワークショップ、慰霊活動、検証活動などを行いました。熊本や岡山でも被災者との交流や支援をしています。

その中で、豊岡の地場産業かばん製造のノウハウを生かした、ミニチュアランドセル作りのワークショップは大きな評判を呼び、現地の高校生との交流や被災住民の心のケアにつながりました。

もう一つ、アイガモを利用した無農薬の稲作も、活動の大きな柱になっています。素足で圃場に入り、手で田植えをし、水中生物調査を経て、手鎌で稲刈り、天日干しをします。こういった昔ながらの農法を体験することで、コウノトリが住める自然環境を考えるきっかけになり、生命の尊厳や農業のあり方へと、生徒たちの問題意識は大きく広がりました。

収穫したお米は、収穫祭を行った後、被災地の学校や避難所などに送っています。これが被災地との絆につながっています。農作業や収穫祭に、豊岡在住の外国人も含めた地域の人々が参加することで、地域・異世代・異文化交流にもつながっています。

また、幼稚園・保育園、特別支援学校との交流、デイサービス訪問、山陰海岸ジオパークの漂着物回収活動、タイの少数民族への水資源の支援、アイルランドの高校生との交流などを行っています。2020 年のコロナ禍において味気ないアルコール消毒液の容器に付ける豊岡カバン地場産業のリサイクルのボトルネクタイ・リボンやアクセントマットを作成しました。

Oishi サポートセンター

令和2年度あしたのまち・くらしづくり活動賞
兵庫県奨励賞

【団体所在地】 神戸市北区

【活動開始年】 昭和40年

【メンバー数】 5名

【活動テーマ】

女性の人身売買根絶、障害者自立支援の推進

【団体連絡先】

TEL : 078-581-0644



フィリピンの保護司大会にて

【活動の概要】

昭和40年、代表が自宅で開いていた英語教室の生徒の母親（フィリピン人）が売春で生計を立てているのを知り、支援に乗り出したのが活動のきっかけ。

以来、人身売買・性犯罪根絶に向け、国内外で様々なボランティア活動を半世紀以上続ける。性被害者の支援を行う中で、不登校、虐待、体罰などの相談も受けるようになり、子どもの心のケアも行っている。

また代表自身も障がいを持っており、障がいの立場から、自立支援の活動を行っている。国際身体障がい者大会では、神戸市の実行委員長を務めた。

特定非営利活動法人 なごみ

令和2年度あしたのまち・くらしづくり活動賞
兵庫県奨励賞

【団体所在地】 西宮市

【活動開始年】 平成26年

【メンバー数】 26名

【活動テーマ】

全ての住民が暮らし続けられるまちづくり

【団体連絡先】

TEL : 0798-20-2333



地域の若い担い手が主体となって企画する『鳴尾ふあみりーマルシェ』

【活動の概要】

任意団体から始まった地域運営型NPO法人。地域の担い手を巻き込みながら活動を展開中。

<主な活動>

- ①共生型の地域交流拠点「まちcafé なごみ」
- ②多世代参加型の食事会「なごみで晩ご飯」
- ③年齢に関係なく入学でき、地元のまちについて学び考える「まちのがっこう」
- ④ワンコインで困りごとを助け合う「まちのよろず屋」
- ⑤不登校に悩む子どもと親の居場所「toitoi」



多世代参加型食事会『なごみで晩ご飯』

認定特定非営利活動法人 みなみ会

【団体所在地】西脇市

【活動開始年】平成 24 年

【メンバー数】300 名

【活動テーマ】

地域の子ども支援と地域コミュニティづくり

【団体連絡先】

Mail : info@minami-kai.org



地域の子どもたちと保護者を対象とした親子教室。読み聞かせから教室は始まります。

令和2年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 兵庫県奨励賞

【活動の概要】

地域の子育て支援、地域づくり、情報発信の3つを核にして活動

〈主な活動〉

- ①学校や行政ではできない、地域の子ども支援や学習支援を、地域住民の協力で実施
- ②個人、組織、学校等のコラボレーションで、新たな発見や交流の場を提供
- ③上記についての情報発信
- ④「西脇の自然・歴史・文化」をテーマにして、ふるさと意識を育む季刊誌を発行している。



夏休み中、市内 15 カ所 で小・中学生対象の宿題指導や学習相談を行いました。指導は教員OBと高・大学生です。

NPO 法人 みやっこサポート

【団体所在地】西宮市

【活動開始年】平成 28 年

【メンバー数】14 名

【活動テーマ】

すべての人が安心して暮らせるまちづくり

【団体連絡先】

Mail : kuma@miyasapo.net



みやっこ食堂（こども&おとな食堂）

令和2年度あしたのまち・くらしづくり活動賞 兵庫県奨励賞

【活動の概要】

福祉情報の一元化と、子どもの成長に寄り添える地域づくり、地域のコミュニティの再生を目指して活動している。

〈主な活動〉

- ①市民生活支援事業（情報支援）
西宮の福祉情報サイト「ともに生きるネット」の運営、市民への相談支援
- ②子ども・子育て支援事業
みやっこ食堂・無料学習教室、不登校支援など
- ③地域福祉活性化事業（交流支援）
教室やイベントの開催、居場所づくり



無料学習教室

More 繁盛 (もあはんせ)

令和2年度あしたのまち・くらしづくり活動賞
兵庫県奨励賞受賞

- 【団体所在地】 宍粟市
【活動開始年】 平成28年
【メンバー数】 10名
【活動テーマ】
繁盛の地名と廃校活用で稼ぐ仕組み作り
【団体連絡先】
TEL：090-6909-1691



旧繁盛小学校を拠点とした自然体験事業

【活動の概要】

宍粟市最北部に位置する繁盛地区を、急速に進む過疎化・高齢化から守るために活動している。

〈主な活動〉

- ①新たな繁盛地区の特産品の6次産業化
- ②阪神間からファミリー層、外国人参加の自然体験事業実施、宿泊業（ゲストハウス）
- ③地元住民×関係人口の憩いの場づくり、飲食業（ジビエ料理、コミュニティーバー）
- ④繁盛という縁起の良い地名をブランド化し、旧繁盛小学校を再活用した観光の拠点化



廃校の教室を使った More 繁盛カフェ

山水生活学校 代表 河野 さかゑ 氏

(あすの兵庫を創る生活運動協議会 監事)

令和2年度あしたの日本を創る運動推進功労
内閣官房長官表彰受賞

山水生活学校

- 【活動拠点】 淡路島
【活動開始年】 昭和57年
【メンバー数】 48名
【団体連絡先】 淡路県民局交流渦潮室消費者センター
TEL：0799-26-3360

【主な活動】

- ①環境美化・緑化活動
- ②省資源・リサイクル活動
- ③高齢者支援
- ④子育て支援
- ⑤東日本大震災の被災地支援 等



高齢者消費者被害防止キャンペーン (淡路イッパ)店

【河野さかゑ氏の功績】

昭和57年の山水生活学校設立以来、37年にわたり代表を務め、環境美化のための花壇整備等の地域に根ざした活動や、省資源、リサイクルの観点からの廃油回収、ごみの分別等に継続して取り組んできた。また、平成17年頃からは子育て支援にも積極的に取り組んでいる。近年は高齢化率が高まる中、少しでも元気で過ごせるように健康づくりに気をつけ、誰もが元気で暮らせるための研修を行いながら活動を続けるなど、時代に即した幅広い活動を長年にわたり取り組んでいる。

県協議会においても理事、会計、副会長を歴任し、平成17年に発足したあすの兵庫を創る生活運動協議会でも監事、会計を務め、県協議会での役員歴は通算37年に及ぶ。

月が丘生活学校

令和2年度あしたの日本を創る運動推進功労
会長表彰受賞

- 【団体所在地】 神戸市西区
(月が丘地域福祉センター)
- 【活動範囲】 神戸市西区 (主に月が丘小学校区区域内)
- 【活動開始年】 平成24年
- 【メンバー数】 41名
- 【活動テーマ】
子どもから高齢者まで安心して暮らせる
まちづくり
- 【団体連絡先】
TEL : 078-995-1195



防犯パトロールの様子

【主な活動】

- ① サロン活動
(昼食会、交流会 (障害者との交流等))
- ② 子育て、家事支援
- ③ 料理教室 (一人暮らし男性支援)
- ④ 健康促進
(リハビリ体操、ミディイブス、フラダンス教室等)
- ⑤ 友愛訪問活動
- ⑥ 教室活動
(パソコン、手話、認知症対策講座等)
- ⑦ 外出支援
- ⑧ 防犯活動
(見守り隊、登下校時防犯パトロール、青パト等)
- ⑨ 広報活動 (回覧物全戸配布)



給食サービス (スマイレ会) と友愛訪問を担うメンバー

【活動紹介】

月が丘小学校区住民の地域福祉活動の拠点となる月が丘地域福祉センター並びにその他地域施設等を有効に活用して、地域の自主的な福祉活動・交流活動を実施・推進するため、発足。月が丘小学校区区域内の福祉関係団体及び公共的団体並びに学識経験者等住民の代表により組織され、その協議会において活動方針その他諸般の行事を協議決定し運営しています。団体としては、神戸市西区月が丘地域の「月が丘地域福祉センター」の管理運営を、指定管理で請け負う月が丘ふれあいのまちづくり協議会と協働して行い、年間約15,500人の利用者がいます。

「認知症になっても 障害をもっているひとりひとりを否定しない個人が大切にされる街」＝「ずっと心地良く住める街」を目指し、事業運営部会、福祉対策部会、防災防犯部会、施設管理部会、広報調査部会の5部会がそれぞれ協力関係を築きながら活動を展開しています。

事業運営部会では、地域諸団体と協力しながら子どもたち及び親子の行事を積極的に実施し、地域住民同士の交流促進を図っています。

福祉対策部会では、高齢者や障害者を含め、地域住民全員が安心して安全に暮らせるよう他団

体や福祉施設と協力して住民同士の交流促進となる教室等の開催を展開するとともに、身体機能の維持を目的とした体操や友達作りの場として利用できるリハビリ体操や地域に住む独居高齢者、要支援の特定高齢者に、地域デイサービスや見守り活動としての友愛訪問を行っています。

防災防犯部会では、開設目的である「子どもから高齢者まで安心して暮らせるまちづくり」を実現すべく、地域の見守り活動や友愛訪問を実施。団体のこのような活動により、友愛訪問対象の高齢者から、以前よりも安心して暮らせるようになったという声があり、小学校区全体の見回り活動を行うことにより犯罪の減少にもつながっており、子育て世代の親からも感謝の声があがるなど効果が表れています。

広報調査部会では、地域内のイベントや団体の活動を周知することで、地域住民同士の交流促進や地元の情報の理解促進を促しています。

施設管理部会では、月が丘地域福祉センターの運営及び管理。住民が快適に心地よく利用できるよう居心地のよい空間を創造し、また利用者増を目指すため、イベントの開催等も行っています。

真野地区生活学校

あすの兵庫を創る生活運動協議会
新規加入団体

【団体所在地】 神戸市長田区
(真野地区まちづくり会館)

【活動範囲】 神戸市長田区真野地区

【活動開始年】 平成 30 年

【メンバー数】 52 名

【活動テーマ】

高齢者問題、防災・防犯、まちづくり

【団体連絡先】

TEL : 078-652-8448

【主な活動】

- ・子育て支援
- ・ふれあい喫茶
- ・ブックカフェ
- ・防災訓練
- ・健康体操
- ・パソコン教室
- ・各種イベントの開催 等



もちつき大会の様子



総合防災訓練の様子

【活動紹介】

真野地区のまちづくり活動の原点は、1965年初頭の公害反対運動にあります。まちづくりがスタートして約50年、約2,300世帯、3,700名が暮らす真野地区では、複数の団体が先駆的な町作り活動を繰り広げています。地域住民や団体同士の結束力が強く、平成7年に発生した阪神・淡路大震災時においても、甚大な被害を受けたものの、各自治会の会長や団体の代表者、住民有志が立ち上がり、自治会主体によるスムーズな避難所運営を実現させました。

また、真野地区では、地元企業との連携が特徴的で、震災時にも地元企業が自衛消防隊として、いたるところで発生した火の手を食い止めました。その後も、住宅と企業が共存できるまちをめざし、良き関係を築いてきました。

震災後、企業と住民の距離は一層近くなり、地元企業が主催するイベントに住民が参加するなど盛んな交流が続いています。

地域活動の核として防災活動があります。真野地区は、1月17日には地元企業三ツ星ベルト株式会社が、3月には各コミュニティの連携による総合防災訓練を実施。企業と住民が一緒になって消火・放水・救護・炊き出しや要援護者の避難誘導

訓練などに取り組んでいます。さらに、子供たちが楽しみながら地域防災を学ぶイベント等も実施しています。

そして、防災に限らず、安全・安心のまちづくりを実現するためには、普段から、地域内の団体同士そして行政との連携をもって課題に取り組むことが重要です。

そんな真野地区において、地区老人会や自治会、真野地区ふれあいのまちづくり協議会などと連携して地域の課題解決をはかるための、連携の核となる組織として平成30年度に発足。真野地区も例外ではない、各地域で発生している高齢者問題をより広く周知し、より早く、より適切な解決へと導いています。

これから、益々、高齢者の閉じこもり予防や、生きがいづくり、交流や助け合いが必要になります。そのような課題に対して、ひとつの団体での対応では限界があります。その限界を超え、多岐にわたる様々な地域課題を解決することで、将来、より安心して過ごせるまちになるように、他団体との連携を図ることを軸としつつ、地域住民全体が、満足のいく活動を今後も続けていきたいです。

「あしたのまち・くらしづくり活動賞」

地域が直面する様々な課題を自らの手で解決して、住み良い地域社会の創造をめざし、独自の発想により活動に取り組んでいる地域団体等の活動の経験や知恵などのストーリーを公募し、表彰しています。

【令和2年度 全国表彰】

- ・内閣総理大臣賞 1件
- ・内閣官房長官賞 1件
- ・総務大臣賞 1件
- ・主催者賞 5件
- ・振興奨励賞 20件

【令和2年度 兵庫県表彰】

- ・優秀賞 4件
- ・奨励賞 5件

〔発行〕 あすの兵庫を創る生活運動協議会

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1
兵庫県県民生活課内
TEL : 078-362-3136
FAX : 078-362-3908